

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

○ 県内経済は、製造業・非製造業の格差を残しつつ、一進一退の状況が続いている。生産活動面では、輸送用機械の一部に一段と水準を上げる動きもみられるなど全体としてはなお高水準を維持しているものの、電気機械で操業度が幾分低下するなど増勢に一服感が窺われる。また、個人消費は、所得に捗々しい改善がみられない中、やや弱めの動きとなっているほか、建設関連も、公共投資の減少等が続いていることから低調に推移している。

2. 最終需要

(1)個人消費

○ 個人消費は、家電販売等に上向きの動きもみられるが、全体としては、やや弱めの動きとなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは、平年よりも温暖な気候が続いたこともあって主力の冬物重衣料品の出足が鈍いことなどから、弱めの動きが続いている。

(家電量販店売上高)

家電量販店の売上げは、ウェイトの高いパソコンが引き続き低迷しているものの、デジタル家電が新製品投入や販売価格下落によって再び増勢を強めたこともあって、足もとやや上向いている。

(乗用車新車登録台数)

10 月の乗用車新車登録台数は、これまでの新車投入効果の一巡に加え、一部に今後の新車投入を見越した様子見の動きがみられたこと等もあって、前月に引き続き前年を下回った。

(旅行取扱高)

旅行取扱高は、海外旅行が持直しの傾向にあるが、国内旅行が弱めの動きとなっており、全体としてはやや盛り上がり欠ける動きとなっている。

(2) 住宅投資

○ 10月の新設住宅着工戸数は、貸家、持家を中心に前年をやや上回った。

(3) 公共投資

○ 公共工事請負金額は、予算規模の縮小を背景として減少傾向が続いている。

3. 生産動向

○ 生産は、増加基調に一服感が窺われる。すなわち、輸送用機械、設備関連等では、高水準の生産を継続し、輸送用機械の一部では一段と生産水準を上げているが、デジタル関連を中心とする電気機械では、引き続き高水準の生産を維持しつつも、受注が鈍化傾向にあることから、操業度が幾分低下している。一方、建設関連では引き続き低水準の生産が続いている。

(電気機械)

半導体・電子部品は、なお高水準の生産が続いているが、受注が鈍化傾向にあることから、操業度が幾分低下している。

(輸送用機械)

完成車は、北米向け高級車の出荷好調に加え、新型車種の生産本格化から、生産水準を一段と上げている。また、自動車部品でも、海外需要の好調を背景として高操業が続いている。

(設備関連)

工作機械では、自動車部品メーカー向けを中心にフル生産が続いている。

(消費関連業種＜紙・パ、精密機械＞)

紙・パ（段ボール原紙）は、飲料品や食料品向け需要が好調なことから高水準の生産が続いている。精密機械（時計部品）は、輸出市場における海外メーカーとの競合がみられるものの、底固く推移している。

(建設関連)

線材が、中国、北米向け輸出の好調から高水準の生産を継続しているが、合板、セメントやコンクリート二次製品など多くの品目では、公共投資の減少等を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

4. 雇用・所得動向

○ 雇用情勢をみると、来春の新規高卒予定者に対する求人数が前年を上回るなど労働需給持直しの動きが見られているが、足もと10月の有効求人倍率（季節調整後）は0.60倍となり、小幅ながら5か月ぶりに低下した。

一方、所得面をみると、企業は引き続き人件費の抑制に取り組んでおり、また諸機関による冬季の県内民間賞与支給額の予測も前年を下回る見込みにあるなど、全体として捗々しい改善をみていない。

5. 企業倒産

○ 企業倒産をみると、落ち着いた動きとなっている。

6. 金融動向

○ 預金は、個人預金が堅調に推移していることから、全体として底固い動きが続けている。なお、県内金融機関では、ペイオフ全面解禁を控え、決済用預金を導入する動きが見られている。

○ 貸出は、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているが、法人向けが引き続き低迷していることから、全体としては低調に推移している。

以 上